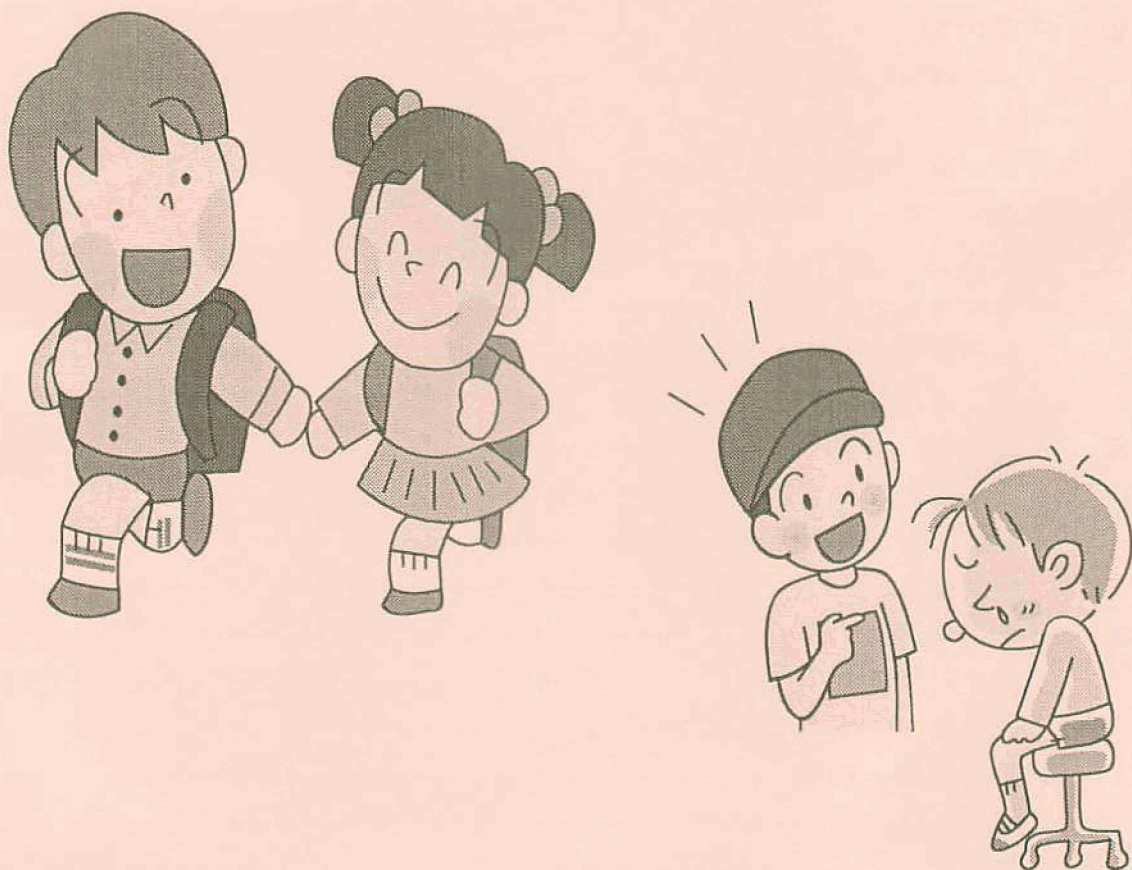


< 小学校・道徳 >

思いやりの心を育てる  
総合単元的な道徳学習の工夫

—第2学年における「構成的グループエンカウンター」を通して—



浦添市立沢岷小学校

新垣 功

## 目次

I	テーマ設定の理由	1
II	目指す児童像	1
III	研究の目標	2
IV	研究の仮説	2
	1 基本仮説	2
	2 作業仮説	2
V	研究構想図	2
VI	研究内容	3
	1 総合単元的な道德学習	3
	2 思いやりの心	4
	3 構成的グループエンカウンター	5
	4 Q-Uアンケート	5
VII	研究実践	6
	1 事前調査アンケート	6
	2 総合単元的な道德学習の進め方	7
	3 総合単元的な道德学習構想図	9
VIII	授業実践	11
	1 実践の記録	11
	2 養護学校との交流会	13
	3 検証授業	14
IX	研究の考察	17
	1 作業仮説(1)の検証	17
	2 作業仮説(2)の検証	19
X	研究の成果と課題	20
	1 成果	20
	2 課題	21
	【おわりに】	21
	【主な参考・引用文献】	21

# 思いやりの心を育てる総合単元的な道徳学習の工夫

－ 第2学年における「構成的グループエンカウンター」を通して－

浦添市立沢岬小学校 新垣 功

## 【要約】

本研究は、道徳を中心とした総合単元的な学習を構成し、相手に対して「思いやりの心」を育てることを目的とした研究である。「思いやりの心」を育てるステップとして「自己肯定感」を育てることを土台においた。具体的方法として、構成的グループエンカウンターの実施、養護学校との交流会などの体験的な学習活動を計画的・発展的に実施することで、児童の「思いやりの心」や「自己肯定感」が育った。

## キーワード

思いやりの心     総合単元的な道徳学習     構成的グループエンカウンター  
 自己肯定感     体験的な学習     Q-U アンケート

## I テーマ設定の理由

近年、科学技術の進歩と経済発展は社会環境を大きく変化させ、価値観を多様化させた。その一方で、子供達を取り巻く環境も大きく変わってきており、少子化や核家族化等で子供達の間関係も希薄になってきているといわれている。学校ではキレる子、いじめ、不登校、学級崩壊などの問題があとをたたず、教育の在り方、特に道徳教育の在り方の重要性が増していると思われる。

学習指導要領「道徳解説編」に、「学校は子供達にとってのびのびと過ごせる楽しい場であること... (略)... そのための基盤として、子供達の好ましい人間関係や教師との信頼関係が確立し、学級の雰囲気も温かく、子供達が安心して自分の力が発揮できるような場であることが求められる。」とある。楽しいはずの学校生活が諸問題を抱えるのはなぜだろうか。千葉大学の諸富祥彦氏は、諸問題をかかえる児童生徒に共通することは1、自己肯定感が育っていない。2、人間関係の力が育っていない、ことを指摘している。そして、この2点を育てることが学校教育の課題であると訴えている。

私はどの学年を担当しても友だちの良いところを見出すことができる子、思いやりのある子になってくれることを願って「お互いに認め合う仲の良いクラス」を学級経営の柱にしてきた。しかし、些細な

ことでケンカになったり、感情を抑えきれず問題になったりすることもたびたびあり、思いやりのある心を育てる指導はどうすればよいらろうと模索してきた。

本校では、毎年6月に肢体不自由養護学校との交流会を行っている。同じ学年の児童同士で歌や、ゲームをしたり、カードの交換をしたりするなど有意義な体験を共有してきている。この交流会はどの児童も優しい面を見せてくれ、道徳的心情を育てる意味でも、有意義な場である。しかし、交流会が終わってしばらくすると、他人に対する思いやりが次第に薄れてくることも感じた。行事だけの取り組みではなく、日々の授業等でも培っていくことが重要であり、継続して取り組むことの必要性を感じている。

そこで本研究は、道徳の授業等で心情の育成に取り組んだり、交流会で体験活動に取り組む、学級活動や道徳で「構成的グループエンカウンター」を行うなど、計画的、発展的に取り組んでいくこと（総合単元的な道徳学習）で、自己肯定感を高め、思いやりの心を育てたい考え、本テーマを設定した。

## II 目指す児童像

- ◎相手に対して思いやりのある子
- ◎自己肯定感の高い子

### Ⅲ 研究の目標

道徳の授業を基本としながら、他教科や学校行事を連動させて、思いやりの心、自己肯定感を育てる。

### Ⅳ 研究の仮説

#### 1 基本仮説

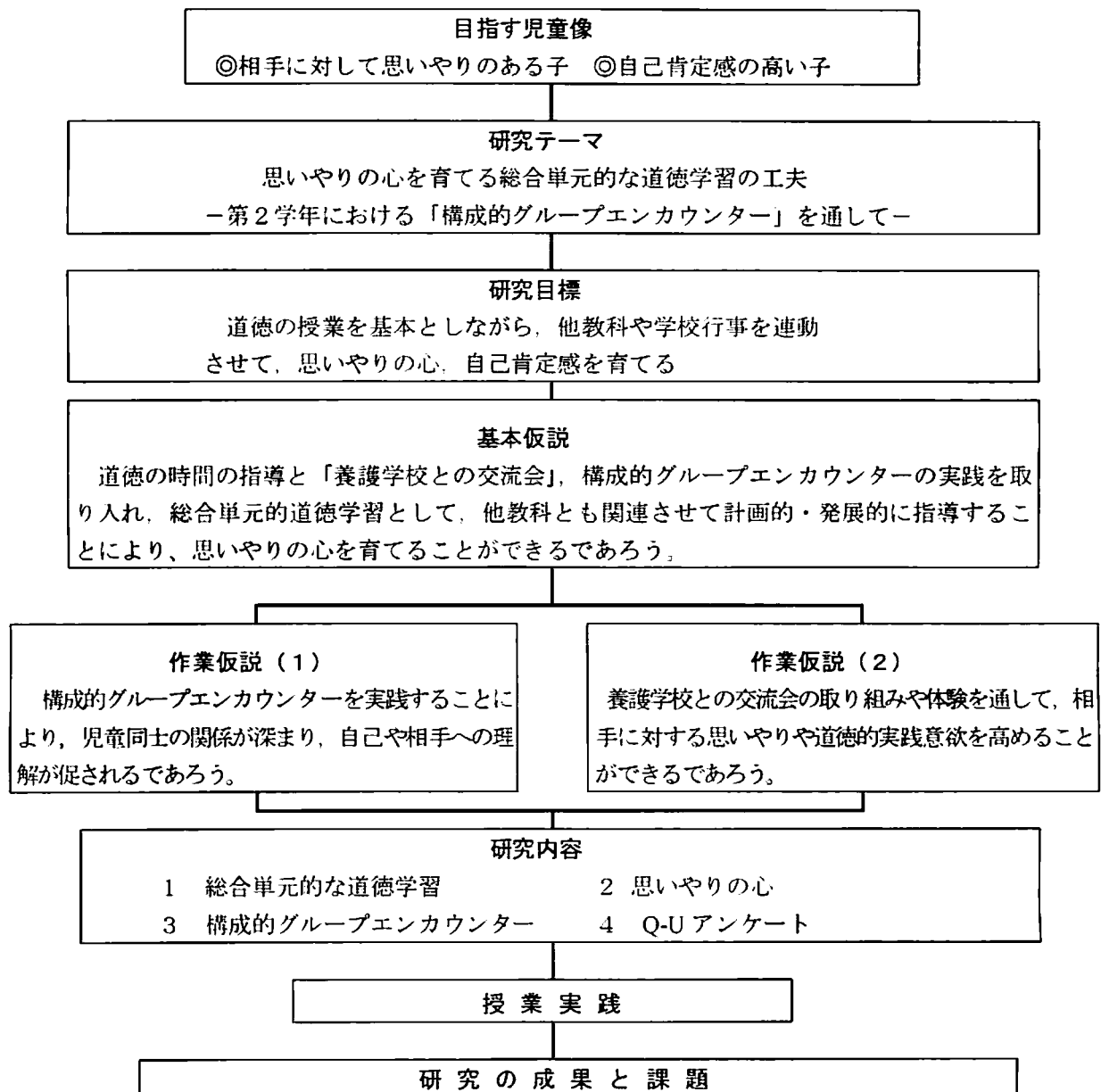
道徳の時間の指導と養護学校との交流会や構成的グループエンカウンターの実践を取り入れ、総合単元的な道徳学習として他教科とも関連させて計画的・発展的に指導することにより、思いやりの心を育

てることができるであろう。

#### 2 作業仮説

- (1) 構成的グループエンカウンターを実践することにより、児童同士の関係が深まり、自己や相手への理解が促されるであろう。
- (2) 養護学校との交流会への取り組みや体験を通して、相手に対する思いやりや道徳的実践意欲、態度を高めることができるであろう。

### Ⅴ 研究構想図



## VI 研究内容

### 1 総合単元的な道德学習

#### (1) 総合単元的な道德学習の必要性

道德教育は、児童生徒が豊かな心を持ち、人間としての生き方を自覚することによって、児童生徒の道德性を育成することをねらっている。

道德性とは人間の存在の根源に関わるものであり、人格の基盤を形成するものである。したがって、人格形成を目標とする学校教育は、道德教育が中心的な課題となることを共通理解した上で展開されなければならない。

その場合、各教育活動における道德教育が個々に行われるのでは、十分な効果が期待できないことから、それらを補充、深化、統合する道德の時間との関連を、道德教育の全体計画に基づいて明確にし、道德の時間の年間計画指導に基づいて効果的に推進することが認められる。ここに、道德の時間と他の教育活動との有機的な関連を図る学習、すなわち総合単元的な道德学習の展開が必要となる。

#### (2) 体験的な活動を生かす総合単元的な道德学習

授業内容では、授業時数を確保することを強調した上で、内容項目を新設したり、書き換えて、善悪の判断、郷土の文化と生活に親しむこと、国を愛する心や外国の人々と文化に関心を持つことなどが小学校では打ち出されている。これらの内容に関しては、とりわけ体験活動（ボランティア活動や自然体験、交流会活動など）を生かす指導が打ち出されており、体験的な活動を生かした道德学習の展開が強く求められている。

すなわち、新学習指導要領は、体験的な活動を生かすことによって総合単元的な道德学習を展開することが、これからの道德教育を推進するに当たって、とりわけ重要であることを指摘しているのである。豊かな心や思いやりの心はその結果はぐくまれるととらえる。

#### (3) 総合単元的な道德学習指導過程の基本

総合単元的な道德学習を考える場合には、道德の時間を中核とし、その事前、事後に位置づけられる他の教育活動を通して、子どもの課題意識を明確にしたり、課題を追求したりすることで、子ども自身の自主的な活動として道德学習が行われていくようにすることが大切である。

#### (4) 総合単元的な道德学習の定義

総合単元的な道德学習の提唱者である押谷由夫氏はこの学習法について次のように定義している。

経験単元（生活単元—経験や体験を元に構成）、教材単元（知識や技能の取得を中心として構成、各教科や特別活動等含む）の各教育活動の特質を生かしながら、共通した道德的価値に関する学習内容について道德の時間を中心に、有機的なまとまりを持たせた学習活動を計画すること。

#### (5) 本研究での総合単元構成について

本研究では道德を中心として、学級活動、生活科の三つの領域にまたがる単元構成を考えた。道德の時間で副読本や読み物資料の活用により道德的心情を高め、エクササイズを取り入れることにより、道德的実践意欲を高める。また、養護学校との交流会（生活科）を体験することにより、深化され情動的に受け止めることになる。また学級会などで感想文を書いたり、話し合ったりする場面も設定する。

このように、3領域を計画的・発展的に組み立てていけば、それぞれが、補充・深化・統合されバランスのとれた教育活動が展開できると考えた。

#### (6) 全体構想図

ねらいを達成するためには、各教科を有機的に関連させた学習活動が効果的であること



を念頭に置き、子どもたちの生活に密着した課題を体験的な活動を通して、道徳的価値に気付くようにさせたい。

## 2 思いやりの心

### (1) セルマン教授の位置づけ

「思いやり」を広辞苑では「自分の身に比べて人の身について思うこと」と定義されている。

また、ハーバード大学のセルマン教授 (Selman, R.L) は、「思いやり」について「相手の気持ちを推測し、理解する能力」とし、これを「役割取得能力」と位置づけている。また、役割取得の発達段階は幼児期から青年期までを通して、次のように5段階あることを明らかにしている。(表1参照)

表1 役割取得能力の発達段階

レベル0	自己中心的役割取得 (3～5歳) 自分と他者の視点を区別することがむずかしい。同時に、他者の身体的特性を心理面と区別することがむずかしい
(小学生の発達段階)	
レベル1	主観的役割取得 (6～7歳) <u>自分の視点と他者の視点を区別して理解するが同時に関連づけることがむずかしい。また、他者の意図と行動を区別して考えられるようになり、行動が故意であったかどうかを考慮するようになる。</u> ただし、「笑っていれば嬉しい」といった表面的な行動から感情を予測しがちである。
レベル2	二人称相対的役割取得 (8～11歳) <u>他者の視点から自分の思考や行動について内省できる。また、他者もそうすることができると理解する。外から見える自分と自分だけが知る現実の自分という二つが存在することを理解するようになる。</u> したがって、人と人とが関わるときに他者の内省を正しく理解することの限界を認識できるようになる。
レベル3	三人称相対的役割取得 (12～14歳) 自分と他者の視点以外、第三者の視点をとることができるようになる。したがって自分と他者の視点や相互作用を第三者の立場から互いに調整し、考慮できるようになる。
レベル4	一般化された他者としての役割取得 (15～18歳) 多様な視点が存在する状況で自分自身の視点を理解する。人の心の無意識の世界を理解し、主観的な視点をとらえるようになり、「言わなくても明らかな」といった深いところで共有される意味を認識する

セルマン教授の発達段階をもとに考えると、小学校2年生(7歳から8歳)は、幼児期の自己中心性は、かなり残っているが、他人の立場を認めたり、理解する能力も徐々に発達する年齢と考えられる。

(2) 『心のノート』(文部科学省発行)による「思いやり」の位置づけ

- ①困っている人がいたら助けたいと思う心
- ②喜んでいる人がいたら、いっしょに喜びたいと思う心
- ③悲しんでいる人がいたら気づかおうとする心

『心のノート3, 4年生』38-39ページより

この3点をふまえて「思いやりの心」を育てる道徳や学級活動、生活科の授業計画を作成したいと考える。

### (3) 自己肯定感について

相手に対して「思いやりの心」を持つ土台として自己肯定感が重要と考えられるので、自己肯定感を高めることも取り組みたいと考える。諸富祥彦氏は「自分は大切な存在である」という感覚が自己肯定感である」と指摘している。小学校低学年段階では、わかりやすく「自分が好き」という気持ちをもつことを目指したいが、自分のことを肯定的にとらえきれない児童も予想されるので、自分が家族に支えられていることを知り、家族にとって自分が大切な存在であることに気付かせることも段階としては取り入れたい。また、「いいとこさがし」でそれぞれのよさを見つけ、友だちに自分のいいところを指摘してもらうことにより自己肯定感が高まると考える。

自己肯定感(小学校2年生段階のポイント)

- 1 家族に大切にされていることを実感する
- 2 家庭で仕事や役割があり、自分のことは自分でやれる満足感がある
- 3 友だち同士でいいところを探し合うことにより、自分に自信を持つことができる

(諸富祥彦氏より)

## 3 構成的グループエンカウンター

### (1) 構成的グループエンカウンターとは

構成的グループエンカウンターは人間関係作りや自己発見をねらいとして生まれた手法である。

人数・時間・テーマなどの枠(構成)を与え、エンカウンター(本音と本音で交流できる親密な人間関係、体験)をグループ(集団)を通して行うもの。リーダーの指示によって、集団でエクササイズを行い、エンカウンターを体験することを構成的グループエンカウンターをいう。

### (2) 構成的グループエンカウンターの進め方

構成的グループエンカウンターは、エクササイズとシェアリングで構成される。エクササイズは、ねらい(①自己発見 ②他者理解 ③自己受容 ④自己主張 ⑤信頼体験 ⑥感受性の高まり)を達成するために用意された課題であり、シェアリングは、エクササイズをふりかえってそこでの気づきや感情を本音で出し合い、分かち合うことである。

構成的グループエンカウンターでは本音と本音の交流が求められるが、ただ自由に本音を言い合っていたのでは、ねらいが達成できないばかりか抵抗や自己嫌悪といった心的外傷を起しかねない。そこで意図的に指定された枠(エクササイズの選定、時間やルール)や、リーダーの介入によってそれらを防ぐような配慮がなされている。

## 4 Q-Uアンケート

Q-Uアンケートとは、不登校やいじめ被害をうけているといった可能性の高い子供の早期発見と、学級集団の状態を分析することを目的とした尺度である。Q-Uアンケートは、児童生徒が、自分の存在や行動が級友や教師から承認されているか否かを示す「承認得点」と、不適応感やいじめ・冷やかしのなどを受けているかを示す「非侵害・不適応得点」の二つの観点から、児童の学級生活における満足感をはかり、それぞれの得点を全国平均値と比較して4つの

群に分類するものである。学級の実態把握のために Q-U アンケート（河村茂雄氏 都留文科大学）を用いた。

また、Q-U アンケートでは学校生活意欲度の尺度も付属しており、集団と個の両面からの把握が可能である。Q-U アンケートは全 21 問のアンケート項目から分析する。本研究では前述した心のノート「思いやり」をもとに下記の 3 点を参考にし、Q-U アンケート質問の中から焦点をあてて検証前、検証後のアンケート結果を総括した。

## VII 研究実践

### 1 事前調査アンケート

Q-U アンケートは、児童それぞれの状態及び学級の状態を客観的、多面的に理解するための調査法の一つで教師の日常的な観察法や面接法の限界を補うことができる。

(1) 学校生活意欲尺度 (Q-U アンケートから)

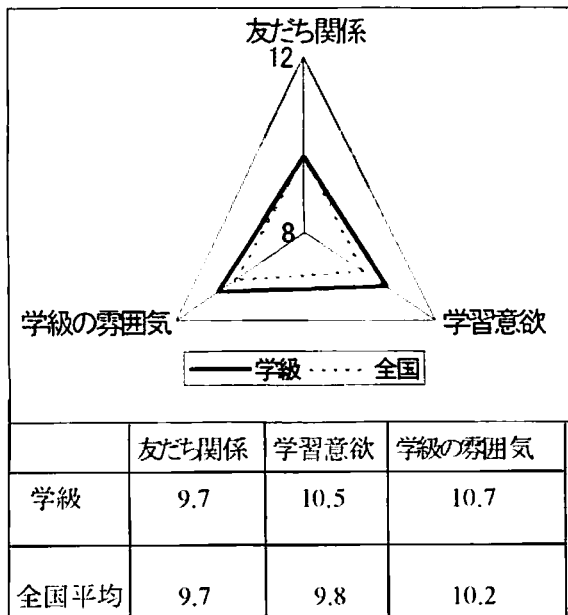


図1 学校生活意欲尺度 (5/11実施)

学校生活における児童の意欲や適応を友だち関係、学習意欲、学級の雰囲気の三つの観点から把握するものである。

本クラスのアンケート結果は、友だち関係は全国平均 9.7 と同じで、学習意欲は全国 9.8 に対し学級 10.5 と上回った。また学級の雰囲気

は全国 10.2 に対し学級は 10.7 と上回っている。調査結果から本学級は全国平均に比べ学習意欲が高く、積極的に勉強に取り組もうとしている児童が多いといえる。

(2) 自分にはよいところはありますか (自作アンケート)

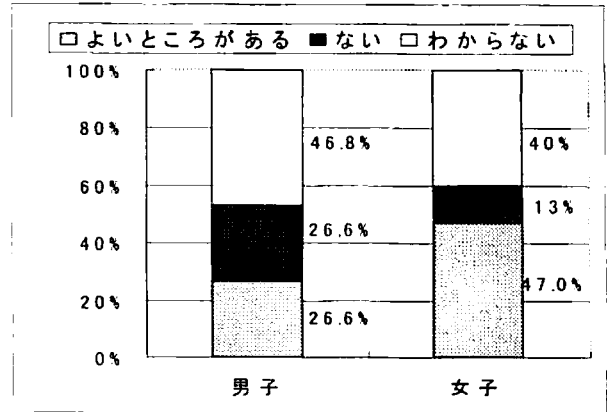


図2 自分にはよいところはありますか (5/18)

自分には良いところがあると答えた児童は、男子 26%、女子 47% と男子が低いことがわかる。しかし、わからないが男子 46.8%、女子 40% と半数近くもいるので、本人の良いところを教えてあげたり、達成感を感じる活動を増やすことで自分を肯定的にとらえろと考えられる。

(3) 自分のことは好きですか (自作アンケート) とても好きを 10 とした場合のアンケート結果

とても好き	10・11人	36.6%	(男子2人 女子9人)
	9・	2人 6.7%	(男子1人 女子1人)
	8・	4人 13.3%	(男子2人 女子2人)
	7・	3人 10%	(男子3人)
	6・	1人 3.3%	(男子1人)
ふつう	5・	6人 20%	(男子4人 女子2人)
	4・	0人	
	3・	0人	
	2・	1人 3.3%	(女子1人)
すきではない	1・	2人 6.7%	(男子2人)
30人			

図3 自分のことは好きですか(5/18実施)



自分のことが好き度数6～10の児童はクラス30人中21人と70%をしめ、自分を肯定的にとらえている児童が多いことがわかる。特に、とっても好き10の11人のうち9人が女子で、全体的に女子の方が自己肯定感が高いといえる。一方、度数1や2の児童もいて、5以下が男子7人、女子3人となっており、男子の自己肯定感が低いといえる。また、1や2の児童達の自己肯定感を高めるための手だてが必要と考えられる。

## 2 総合単元的な道徳学習の進め方

### (1) 総合単元的な道徳学習の計画

実践の大きな柱として1. 鏡が丘養護学校との交流会。2. 検証授業のいいとこさがし。を念頭において、養護学校との交流会までを相手と関わるためのスキルや「思いやりの心」を育てるためエクササイズを配列した。また交流会後の検証授業「いいとこさがし」までのエクササイズは、自己肯定感を高めるためにみんながほめられやすい題材として「お絵かきリレー」や「Xからのてがみ」を選んで配列した。「思いやりの心」を育てることと「自己肯定感を高める」ことはリンクしていると考え、相互作用的に高まることをねらって全体計画を実行した。

### (2) 構成的グループエンカウンターの実践

#### ① エクササイズの工夫

構成的グループエンカウンターの一柱であるエクササイズの配列・順序は児童の実態把握、発達段階を基本とし、リレーションづくり→相手への思いやりの増加→自己肯定感の高まりを考慮した。内容も動きのあるゲーム性の高いものから内面性に迫っていけるものを配列した。

#### ② シェアリングの工夫

シェアリングは構成的グループエンカウンターの一つ目の大きな柱である。エクササイズを繰り返すことによってそこで気づきや感情を明確化し、ねらいを定着させる働きを持つからである。また、一人の気づきや感情を全員で共有することで、

他者理解・信頼体験を行う。しかし、一時間単位の授業時間内で行うとなると、エクササイズに時間がかかり、十分なシェアリングの時間がとれないことがよくある。そこで、学級通信を利用して児童の気づきや思いを届けていくことで共有化を補ってきた。道徳通信の中にある友だちのことばに思いを寄せたり、気持ちを重ねたりすることで、授業中に不足したシェアリングを補えることができると考えた。また、道徳通信を作成し家庭に届けることにより、保護者にとって子どもの声や学級の実態を知ることができ、家庭でも話題になって、さらに子どもたちの興味関心が高まることも期待した。

#### ア 道徳通信作成の留意点

- ・できるだけ児童全員をのせる。
- ・写真も多く掲載される児童と、掲載されない児童の偏りがないように配慮する。
- ・保護者にも児童の様子を知らせるため「家の人にも見せてね」と念を押し、保護者の方にも学級や児童の様子やエクササイズの内容、児童の感想などを伝える。



図4 道徳通信「なかま」

3 総合単元的な道徳学習構想図

ねらいを達成するためには、各教科を有機的に関連させた学習活動が効果的であることから、図5に示すような総合単元的な道徳学習を計画した。

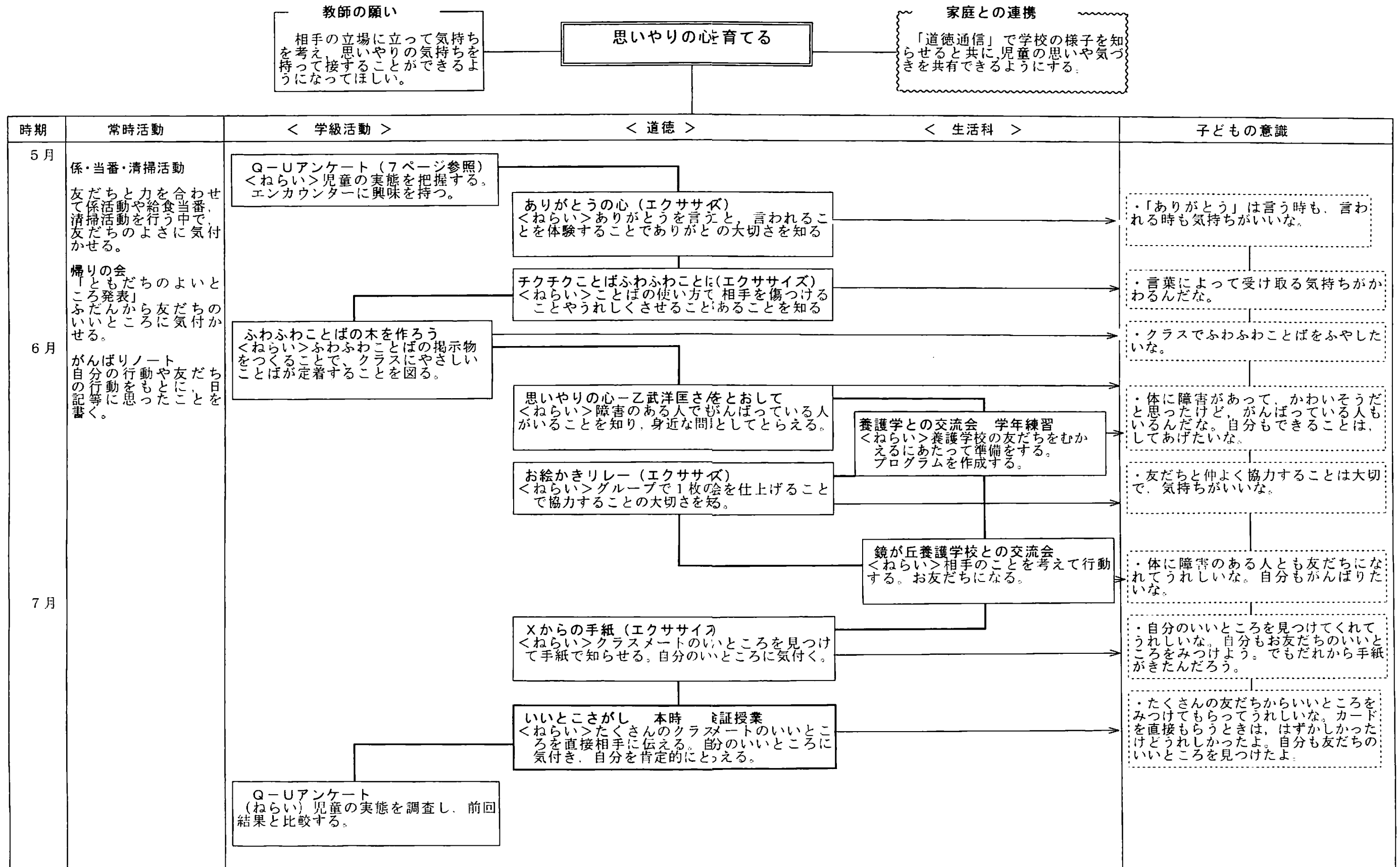


図5 総合単元的な道徳学習構想図

## VIII 授業実践




### 1 実践の記録

最初の授業はアンケートによる児童の実態把握を取り入れた。また、初期のエクササイズは相手と気持ちよく接するためのスキルを中心に行い、養護学校との交流会までに「思いやりの心」の育成をめざした。

その後は検証授業のいいとこさがしを中心に自己肯定感を高めるエクササイズを配列した。

こうしたエクササイズを行うことにより、相手に対して思いやりを持つこと、自己肯定感を持つことに良い影響があると考え、授業計画を作成した。

日 時	教科・領域名	題材名・内容	ねらい
5/11	学級活動	Q-Uアンケート 質問じゃんけん (エクササイズ)  握手から質問じゃんけんを始めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の学校生活意欲や学級満足などの実態を把握する。友だちのことを知り、親近感を持たせる。</li> <li>自己開示</li> </ul>
5/18	道徳	自己肯定感のアンケート ありがとう役割ゲーム (エクササイズ)  ありがとうを言い合っています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の自己肯定感を把握する。</li> <li>ありがとうを言い合うことを体験させ、言われたときの気持ち、言ったときの気持ちを実感させる。</li> <li>他者理解</li> </ul>
5/20	道徳	ふわふわことば (いわれると気持ちがいいことば)、チクチクことば (いわれるといやな気持ちになることば)  ふわふわことばを言っています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ことばや言い方によって相手の受け取り方が違うことを知り、ことばや言い方が大事であること知る。</li> <li>他者理解</li> </ul>
5/27	学級活動	ふわふわことばの木を作ろう  「ふわふわことばの木」できあがり。	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラスでふわふわことばが定着するように、みんなで協力してふわふわことばの木の掲示物を作成する。</li> <li>信頼体験</li> </ul>

6/8	道徳	<p>思いやり、いたわりの心 乙武洋匡さん（五体不満足の著者） をとおして</p>  <p>みんな真剣に聞いています</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある人のことを学ぶことによって、思いやりや相手の立場に立って行動することの大切さを知る。</li> <li>・他者理解 自己理解</li> </ul>
6/13	生活科	<p>養護学校との交流会 準備 リハーサル</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鏡が丘養護学校との交流会の準備リハーサルを行う。</li> </ul>
6/24	道徳	<p>協力することの大切さ お絵かきリレー（エクササイズ）</p>  <p>グループで分担してかいています</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力することの大切さを知り、お互いに肯定的にとらえることを体験する。</li> <li>・他者理解 自己理解</li> </ul>
6/29	生活科	<p>鏡が丘養護学校との交流会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者理解 自己理解</li> </ul>
7/1	道徳	<p>Xからのてがみ（エクササイズ）</p>  <p>お友達にてがみを書いています</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に対する思いやりの心を育て、自己肯定感を高める。</li> <li>・自己理解 他者理解</li> <li>・自己受容</li> </ul>
7/5	道徳	<p>公開検証授業 いいとこさがし（本時）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己理解 他者理解</li> <li>・自己受容 信頼体験</li> </ul>
7/13	学級活動	<p>Q-Uアンケート 自己肯定感のアンケート 伝言リレー（エクササイズ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学校生活意欲や学級満足などの実態を把握し、検証前と比較する。</li> <li>・児童の自己肯定感を把握し、検証前と比較する。</li> </ul>

## 2 養護学校との交流会

本校では鏡が丘養護学校との交流会を毎年6月に全校で学校行事として行っており、大きな成果をおさめている。本年は6月15日本校で交流会が予定されていたが、雨天のため中止となった。そこで6月29日にクラス単独で、鏡が丘養護学校を訪問し、交流会を行った。学校内を見学したり、全員が車いすを押したり、乗ったりして鏡が

丘養護学校の児童とも仲よく交流ができ、有意義な交流会が行われた。

(1)日時 6月29日(水) 9:30~10:50

(2)場所 鏡が丘養護学校1F南側フロア

9:30~ 校内見学

9:50 オープニング手をつなぎましょう

10:00~ 交流会

### 実施要項・日程・プログラム

プログラム		児童の様子
1 はじめのあいさつ	沢岬小	 はじめはみんなドキドキでした。
2 クラス紹介	沢岬小 鏡が丘	 沢岬小のクラス紹介です。
3 出し物	鏡が丘 「オブラディオブラダ」 沢岬小 「野に咲く花のように」	 「オブラディ・オブラダ」のおうえんをしました。
4 ふれあいタイム	車いすをおしてみよう のってみよう	 やさしく気をつかって押してあげましたね。
5 みんなでうたおう 6 おわりのあいさつ 記念撮影	「手のひらを太陽に」	 手のひらをたいように をうたいました。 みんなで記念撮影。 はいチーズ

### 児童の感想

・さいしょはドキドキしました。かがみがおかようご学校にはたくさん友だちがいました。(Dくん)

・きょうのこうりゅう会で、オブラディ・オブラダがじょうずだったし、さいごまで、バイバイやってやさしかったです。(Yさん)

### 3 検証授業

## 道徳学習指導案

平成17年7月6日(水) 2校時

浦添市立沢岬小学校 2年2組

男子15名 女子15名 計30名

(1) 題材名 いいとこさがし

内容項目 2-(3) 友情

(2) 題材について

① ねらいとする価値について

本題材は相手に対して思いやりを持つことと、自己肯定感を高めることをねらいとしている。これまでの授業や養護学校との交流会を通して、幼い子や高齢者など障害のある人について認識を持つことで「思いやりの心」の芽を育ててきた。その上で今度は普段の学校生活の中で思いやりを育てたいと考えた。「思いやりの心」と「自己肯定感」は相互作用的に育つと考える。自己肯定感が低ければ、相手に対し思いやりを持つことは難しい。また、自己肯定感を育てることで、相手に対して思いやりを持つことができると考えたからである。人間は自分の長所を知ることは、なかなか容易でないといわれている。自分の短所には気付きやすいが、自分の良いところを自信を持っていえる子は少ないといえる。積極的な自己理解や自己受容が行われず、そのため、自己への肯定感が育ちにくい。そこで、お互いをほめたりほめられたりする活動の場を設定することによって、自分の良さに気付かせることをねらいとした。友だちが見つめてくれた自分の良さを知り、受け入れることが自己理解、自己受容となり、自己肯定感を高めることができ、相手に対する思いやりも育つと考える。

② 児童観

活発な子が多く、授業中の発言も多く、元気なクラスである。男女の仲も良い方だが、積極的な関わりはあまり多くないように見える。また、生き物に興味がある児童も多く、心優しい面がある児童が多い。

③ 指導観

前回の授業で「Xからのてがみ」を行い、ともだちのいいところをさがす学習を行ってきた。今回の「いいとこさがし」は、自分の名前もカードに書き、面と向かって相手にわたすというエクササイズである。相手からカードがたくさんもらえることも素晴らしい事である。そのことをほめた上で相手のよいところを見つけることができたことも大いにほめていきたい。

(3) 本時の活動

ねらい



- ・友だちのよさを発見し、よさを素直に認め、ほめることができる。
- ・友だちが見つけた自分のよさを知り、受容されることの喜びを味わい、自己肯定感を高めることができる。




① 授業仮説

他者理解、自己理解をめざした「いいとこさがし」の構成的グループエンカウンターを実施することにより、自分のよさ・友だちのよさに気づき、認め合うことで、自己肯定感が高まるであろう。

② 展開

過程	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	教師の支援
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日の学習について知る。</li> <li>「いいとこさがし」をやることを知る。</li> <li>詩「いろいろなともだち」を読む。</li> </ul>	<p>「きょうは何を勉強しますか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ともだちにいろいろないいところがあることに気付く。</li> </ul> <p>クラスの人にいいとこカードをかきましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1文字ずつヒントを出す。</li> <li>短所だけでないことを確認。</li> </ul>
展開	<p>1. となりの人と「いいとこさがし」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>となりどうし「いいところ」カードを書く。</li> </ul> 	<p>いいとこカードの書き方を説明します。</p> <p>最初はとなりの人のいいところをかきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どんなメッセージをかいてくれるのかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートといいとこカードをくぼる。</li> <li>友だちのいいところがいまいち浮かばない児童にはアドバイスをします。</li> <li>送るカードに自分の名前を書くことを確認。</li> </ul>
展開 28分	<p>2 グループの人と「いいとこさがし」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループの人の「いいところ」カードを書き、シールをはる。</li> </ul> 	<p>グループの人のいいところをかきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どんなメッセージをかいてくれるのかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードを交互に読む順番を説明する。</li> </ul>
展開 28分	<p>3 クラスの人誰でもいい「いいとこさがし」カードを書く。</p>	<p>クラスの人だれでもいいのでいいところをかきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちのいいところ</li> </ul>

	・読み上げて、相手にシールをはる。	1枚書いたら相手に読んであげてシールをはります。 時間は7分間です。	が思い浮かばない児童にはアドバイスをする。
まとめ 7分	・いいとこ花シートできあがり。 	きょうのエクササイズ楽しかった人、  今日の感想を言える人、	

(4) 評価

- ① 友だちのよさを発見し、よさを素直に認め、ほめることができたか。
- ② 友だちが見つけた自分のよさを知り、受容されることの喜びを味わい、自己肯定感を高めることができたか。

(5) 授業の様子

① ふりかえりシートの結果から

友だちのよいところを見つけることができましたか。の設問に対しクラス30人中7人が「◎」であった。

友だちからカードをもらったときうれしくなりましたか。の設問には、30人中28人が「◎」であった。

カードをもらって「こんなじぶんでいいな」とおもいましたかの設問には、30人中26人が「◎」であった。

きょうのエクササイズはたのしかったですかの設問には30人中29人は「◎」であった。

(6) 授業の考察

多くの児童がきょうの授業は楽しく取組むことができ、カードをもらったときとてもうれしかったようである。

この「いいとこさがし」を公開検証授業にしようと考えた意図は、この授業には相手に

いいとこさがし ふりかえりシート

2ねん2くみ 番なまえ

チェック ( ◎ ○ △ ) で書いてね

- ☆ 友だちのよいところを見つけることができましたか ( )
- ☆ 友だちからカードをもらったときうれしくなりましたか ( )
- ☆ カードをもらって「こんなじぶんでいいな」とおもいましたか ( )
- ☆ きょうのエクササイズはたのしかったですか ( )

きょうのおべんきょうで、おもったことをかきましょう

---

---

---

---

---

---

---

---

7月8日(水)2校時

図6 振り返りシート

対する「思いやりの心」と「自己肯定感」を高めることが含まれていると考えたからである。

授業では、どの子も一生懸命チューリップのシールに「いいこと」や「相手に対する感謝」を書いて渡していた。となりの子、グループの子、クラスみんなへと10分程度の時間であったが、11人の友だちにシールを書いてあげた児童もいた。また友だち同士でほめられることで、多くの子は、ニコニコして終始和やかな雰囲気の中で授業を進めることができた。子どもたちから「もっとやりたい」という声があり、休み時間や昼休みもカードを書かせたところ、下校の頃にはどの子もシートいっぱいシールがはられ、皆うれしそうであった。また、「相手の良いところを見つけることができたこともすごいことだよ」とクラスの友だちのよいところをみつめられたことも大いにほめた。相乗効果的に「相手を思いやること」と「自己肯定感が高まる」ことにつながったと思う。児童の感想でも「楽しかった」「また、やりたい」「友だちにほめられてうれしかった」などの感想が多かった。また、いいとこ花シートや道徳通信をご覧になった保護者の方も喜びと安心の声が多かった。

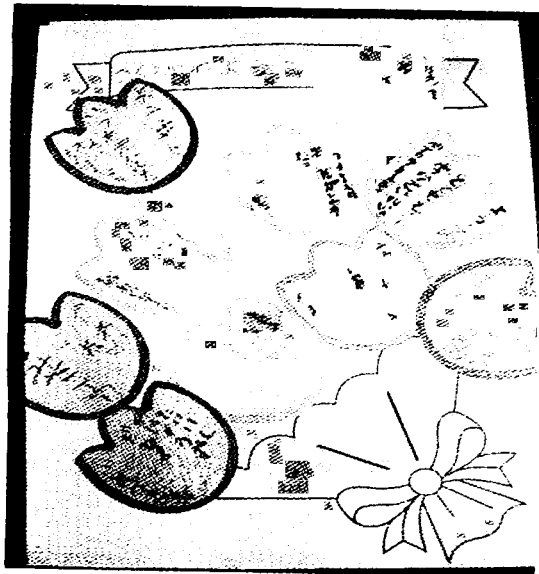


図7 いいとこ花シート

#### ア) 児童の感想より (いいとこさがし)

Rくん： いろいろな人からもらって、うれしかった。10こかいてもらったよ。また、やりたいです。たのしかった。

Dくん： おともだちにチューリップのシールをもらって、とてもきもちがふわふわとなりました。

Aさん： わたしは、じぶんのいいところがわからないけど、友だちがわかるから、どんな花たばがくるか、たのしみだったよ。わたしは、ともだちのいいところをみつめたよ。とってもたのしかったです。また、やりたいなあ。

#### イ) 保護者の感想

Tさん： 毎回、どうとくだよりを楽しく拝見しています。「いいとこ花シート」は本人もお友だちにたくさんいいところを書いてもらったと喜んでいました。親の方も自分の子はお友だちからこんな風に見られているんだなあという新しい発見もあったりで楽しみながら、読みました。

Kさん： 毎回どうとくだよりを読ませてもらっていますが、どの子も皆、その日の楽しかった様子が素直に文章に書かれており、授業の内容がわかります。一人一人がどのような考えを持ち、相手のことやクラスの友だちのことをどう思っているのかが知ることができます。

## Ⅷ 研究の考察

### 1 作業仮説(1)の検証

#### 作業仮説(1)

構成的グループエンカウンターを実践することにより、児童同士の関係が深まり、自己や相手への理解が促されるであろう。

(1) Q-U アンケート (7/13)

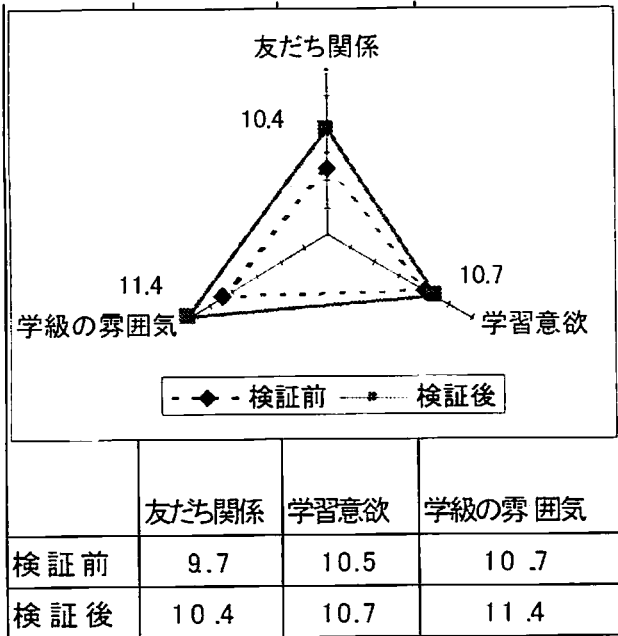


図8 学校生活意欲尺度の推移

【考察】

5月の学級生活意欲プロフィール（検証前）と比べ、エンカウンター実施後は、友だち関係、学級の雰囲気で共に 0.7 ポイントの増加があった。また学習意欲では 0.2 ポイントの増加となった。

全国平均と比べても、実施後は友だち関係で 0.7 ポイント学習意欲で 0.9 ポイント、学級の雰囲気で 1.2 ポイント高くなった。三項目とも検証後は上昇し、児童同士の関係が深まり学習の意欲が出て来たことがわかる。

(2) 思いやりの心について考察 (Q-U アンケートより)

① 失敗したときクラスの人を励ましてくれますか

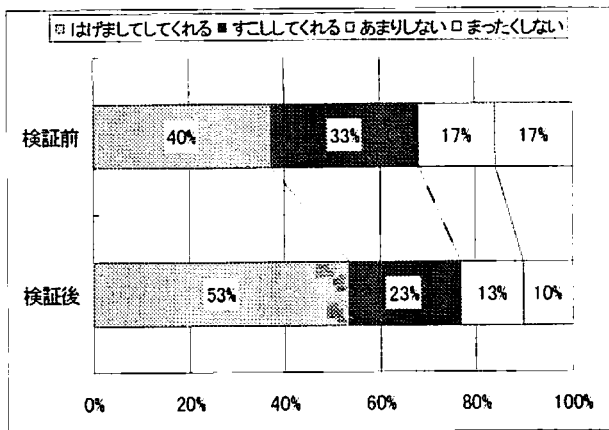


図9 失敗したとき励ましてくれますか。

②何かしようとしたときクラスの人協力してくれますか

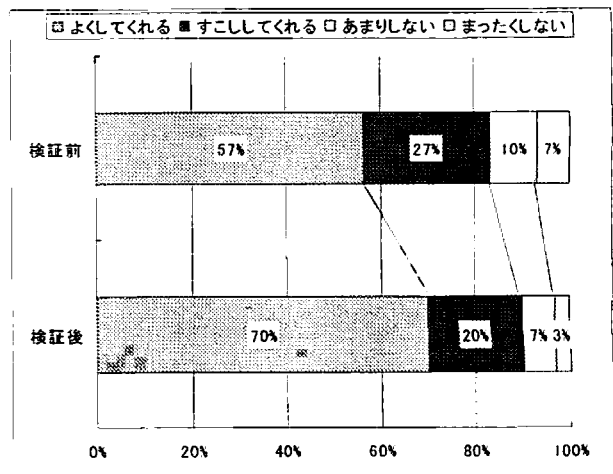


図10 クラスの人は協力してくれますか

③困った時話を聞いてくれる友だちはいますか

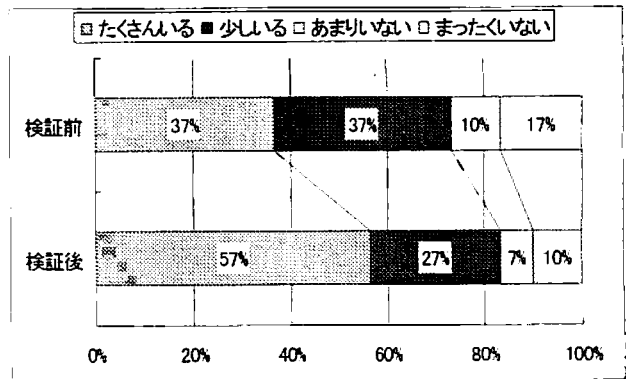


図11 困った時、話を聞いてくれる友だちはいますか。

【考察】

①失敗したときときクラスの人を励ましてくれますか

検証前に比べ検証後はよくしてくれるが 40%から 53%とのびた。クラスの過半数の児童が励ましてくれる状況になったといえる。

②何かしようとしたときクラスの人協力してくれますか

検証前に比べ、検証後はよくしてくれるが 57%から 70%とのび、全く協力しないは、7%から 3%に減り、協力してくれる人がクラスの7割に達していることがわかる。

③困ったとき話を聞いてくれる友だちがいますか

たくさんいるは 57%に達し、クラスの過半数を超えた。まったくいない 17%から 10%に減り、

話を聞いてくれる児童がふえたことがわかる。アンケート結果から、エンカウンター実施後には相手を思いやる気持ちが高くなったことがわかる。

## 2 自己肯定感について

自作アンケート結果から (5/18 と 7/13 比較)

(1) じぶんのよいところはありますか

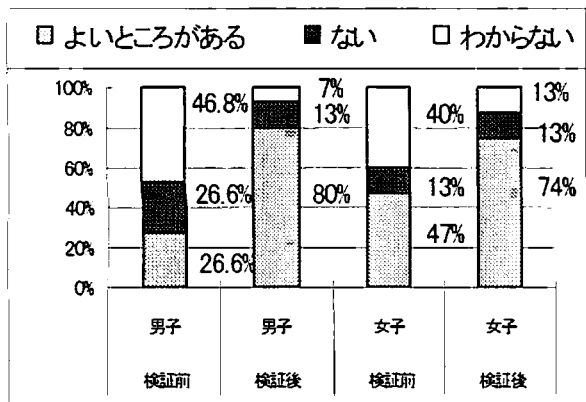


図12 自分のよいところはありますか。

### 【考察】

男子、女子ともに自分にはよいところがあると答えた児童が大幅に増えた。男子 26.6%→80% 女子 47%→74%とクラスの7割以上の児童が自分のいいところに気付いたといえる。これは今までのエクササイズや「いいとこさがし」の実践の効果といえるであろう。

(2) 自分のことは好きですか

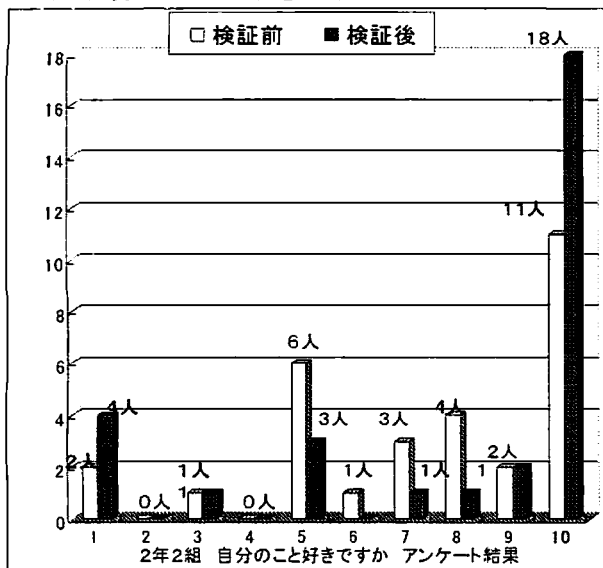


図13 自分のことは好きですか。

### 【考察】

自分のことがとても好き度数10の児童は実施前11人から実施後18人とクラスの半数以上を越えるようになった。クラスの半分以上の子が自分がとても好きというようになったことがうかがえる。これは友だちや教師にほめられたり、自分の気付かない「いいところ」を指摘してもらい自信につながったことが要因と考えられる。また道徳通信などで家庭にお知らせをしたことにより、家庭でも話題になり児童に良い影響があったと考えられる。しかし、自分が好きではない(1度数の児童)が2人から4人に増えたことは要因を分析し、これからの課題として取り組んでいきたい。

## 2 作業仮説(2)の検証

### 作業仮説(2)

養護学校との交流会への取り組みや体験を通して、相手に対する思いやりや道徳的実践意欲を高めることができるであろう。

### 【経過】交流会の前

養護学校との交流会の前に「乙武洋匡さんを通して」という授業を実施したとき、多くの児童は「かわいそう」が多く、予想外の反応であった。小学校2年生という発達段階では無理もない反応だといえるのかもしれない。授業では、障害があってもがんばっている人もいることを伝えたかったのだが、乙武さんをすごいと思ったという児童は少数であった。そのせいか交流会当日、鏡が丘養護学校に到着しても、最初はおっかなびっくりというのが実情であった。養護学校の校舎内に入るのは、全員の児童が初めてだったようで、校舎内の施設も珍しそうに目をこらしていた。車イスが通れるようにと、廊下が広いことやゆるやかなスロープ、訓練用の教室で階段の登り下りを練習している授業を見たときは、子ども達は皆真剣な表情で見学していた。相手のお友だちの様子を知ることによって、一歩距離が近づいたように感じた。

## 【経過】交流会後

交流会が始まると、恥ずかしそうにしたり、距離があった子供たちものびのびと活動するようになった。自己紹介をしたり、歌やダンスで手をつないで踊ったりする中で緊張もほぐれたようだった。同級生のお友達との交流会ということで、親しみやすかったのだと思う。また車いすを押すときも、やさしく押したり、頭をささえながら車いすをおしてあげるなど、相手を思いやった行動が出たことは大きな収穫であった。クラスのどの子も口々に「楽しかった」「また来たい」と言っていた。ふだんはやんちゃな男子も別れを惜しんでさよならをしたり、握手をする児童もいた。学校に戻って感想文を書くとき、いつもよりも長い文章を書いている子が多く、心に大きな思い出を築くことができたと思う。体験することが児童の大きな財産となったと考えられる。

### 児童の感想から（交流会）

Dくん： さいしょは、ドキドキしました。かがみがおかようご学校にいったら、たくさんのお友だちがいました。

Kさん： 今日のはかがみがおかのみなさんとあえて、とってもうれしかったです。車いすもおしてあげました。車いすをおすのはとってもむずかしかったです。

Kくん： きょう、こうりゅう会でさいしょは、ともだちができなかったけど、あとからだんだんともだちができたよ。たのしかったよ。うれしかったよ。

Kさん： みんなはともうれしそうでした。わたしもうれしかったです。手をつないでやりました。とてもたのしかったです。またいきたいです。おもしろかったです。

Iくん： 車いすをおしたのははじめてでした。車いすにのるのもはじめてです。かがみがおかの友だちはしゃべりかたもじょうずでした。

Kくん： 車いすをのったとき、おしたとき、乗っている人の気持ちがわかりました。たのしかったです。

## 【考察】

この感想からわかるように、最初はドキドキしたが、相手とふれあうことで、親近感が湧き、楽しく交流ができたという児童がたくさんいた。また、はじめて車いすを押したり、乗ったりすることで、車いすを押すことのむずかしさや早く押されたときの恐怖感を体験した児童もいたようだ。今回の交流会を通して、接することで相手に対する理解が生まれ、やさしく相手に接する態度も見られた。また、そこから相手の立場を考えたり、自分でできることを考えることにもつながっていくと思う。同じ年頃の障害を持った相手と交流することで、相手を「思いやる心」は確実に育つと考える。またこうした相手に対しての「思いやりの心」がクラスの友だちや家族へもいい影響を与えると考える。

## IX 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

- (1) Q-U アンケートを行うことで、学級の実態把握や児童理解をより客観的で多面的に行うことができた。
- (2) アンケート結果をもとに作成した総合単元的な道徳を実施することにより、「思いやりの心」や「自己肯定感」を高めることができた。
- (3) 学級の実態に即した構成的グループエンカウンターを実施することにより、友だちとの温かい感情交流から児童相互の関係を深めることができた。
- (4) 道徳通信を利用したシェアリングを行うことにより、自分自身や友だちへの気づきを分かち合うことができた。
- (5) 道徳通信に取り上げることにより、学級や児童に対する父母の理解を深めることができた。



## 2 今後の課題

- (1) 自己肯定感が低かった子に対する長期の対応計画を検討する。
- (2) 各教科・領域、学校行事との関連性を持たせた総合単元的な道德学習の年間計画を作成する。
- (3) 構成的グループエンカウンターを円滑に実施するための教師の質的向上。
- (4) 学級通信や定期的な教育相談による家庭との連携をはかる。

### 【おわりに】

「思いやりの心を育てる総合単元的な道德学習」というテーマで、半年間研究を進めてきました。「総合単元的な道德学習」の計画作りから研究を進め、検証授業を含む構成的グループエンカウンターの実践と養護学校との交流会を大きな柱として、11時間程度の授業を実践してきました。

「構成的グループエンカウンター」は私にとっては初めての試みで、参考文献や紹介ビデオをみながら、自分なりに授業案を構成し、試行錯誤しながらの取り組みでした。日々の授業の中では子供達が積極的に授業に取り組んでくれたことが大きな活力となりました。授業計画の作成は迷い、変更しながらの実践で、苦しくもあり、楽しい実践でありました。

こうした研究期間中、ご指導してくださいました研究所の比嘉信勝所長、當間正和係長、石川博基指導主事はじめ、研究所の職員の皆様に心から感謝申し上げます。また、テーマ検討会などで様々な角度からご助言を下さった浦添市教育委員会の諸先生方、的確なアドバイスをくださった城岳小学校の山里正樹教頭先生へ深く感謝申し上げます。また、学校へ行くといつも温かく声をかけてくださった上間茂樹校長先生はじめ、沢岨小学校職員の皆様、クラスの授業で快く協力をしてくださった、2年2組の仲宗根奈美先生、また2学年の先生方、本当にありがとうございました。

最後に、6ヶ月間共に励ましたり、アドバイスしてくれる仲間に恵まれて、本当に幸せでした。授業前に迷っていることを相談すると、明快な意見をいってくれたり、コンピュータ操作で困っていると気軽に助けてくれたりと、すばらしい仲間がいてくれて本当に助かりました。平良葉子先生、上原妙子先生、多良間速子先生、あなた方がいなければ私の研究も遅々として進まなかったことと思います。本当にありがとうございました。

これからも研究成果を糧に教育現場で活かし、さらに実践して自分なりに深めたいと思います。6ヶ月間ありがとうございました。

### 【主な参考文献・引用文献】

- ・「子供とつくる総合単元的な道德学習」 押谷由夫 1997
- ・「新学習指導要領を生かした道德の授業」 押谷由夫 2002
- ・「豊かな自分づくりを支える道德の授業」 押谷由夫 2003
- ・「構成的グループ・エンカウンターを取り入れた指導法」 水戸市総合教育研究所 1999
- ・「エンカウンターで道德」 小学校低学年編 諸富祥彦・黒岩絹子 2002
- ・「エンカウンターで学級が変わる」 國分康孝 1996
- ・「エンカウンターで学級が変わる②」 國分康孝 1997
- ・「VLFによる思いやり育成プログラム」 渡辺弥生 2001
- ・「心に響く『力ある資料』で生き方を教える道德授業」 TOSS 道德教育研究会 2000
- ・「新提案！授業で生き方のスキルを教える」 TOSS 道德教育研究会 2004
- ・沖縄市立教育研究所 「研究報告書（第37集）」 2005
- ・姫路市立教育研究所 「研究報告書（第232号）」 2005